

平成 20 年 7 月 8 日

各位

会社名 アンジェス MG 株式会社
代表者 代表取締役社長 山田 英
(コード番号 4563 東証マザーズ)
問い合わせ先 経営企画部長 林 毅俊
電話番号 03-5730-2480

新たな HGF 遺伝子治療特許が成立(米国)

－ 聴覚障害の治療及び予防が対象 －

当社は、米国において、HGF 遺伝子による聴覚障害を対象とする新たな医薬用途特許が成立し、この度、特許公報(US 7,390,482)が発行されたことをお知らせします。

聴覚障害の主な疾患である難聴には、中耳炎や腫瘍などにより外耳道や中耳の音の伝導が遮られる伝音性難聴と、内耳、蝸牛や聴神経の障害によって引き起こされる感音性難聴があります。例えば、アミノグリコシド系抗生物質やシスプラチンが起因した感音性難聴の場合、内耳有毛細胞が障害を受け、次いで聴覚神経が変性し、その結果、聴覚の機能障害が起こると考えられています。

本発明は、感音性聴覚障害の動物モデルを用い、HGF 遺伝子(プラスミド)を封入した HVJ エンベロープベクターをくも膜下腔に注射した結果、聴覚障害に対する予防、治療の効果が得られた事に基づいたものであり、これは HGF が聴覚神経の機能回復作用を有する事を示すものであります。

本発明は、日米欧に加えてカナダ、豪州、中国にも特許出願しておりますが、まず米国で最初に特許登録されました。

当社は、HGF 遺伝子治療薬の開発プロジェクトをより拡大強化するため、循環器系以外の他領域、他疾患への医薬用途についても順次特許出願し、一層の特許網強化を進めてまいります。

以上